

カーネーション題材に絵画

東伊豆ワークセンター岡さん、みらーと協力

東伊豆町奈良本の障害者生活介護施設「東伊豆ワークセンター」の利用者が18日、地域の特産一つ、カーネーションをテーマにした絵画制作に挑戦した。5月にカーネーション



の引き抜き作業を体験した利用者もいて、実際に見て触れた花を表現する活動を楽しんだ。19日も実施する。カーネーション引き抜き体験は、河津町の地域おこし協力隊、岡愛香梨さんが農福連携の可能性を探ろうと企画。5月に同町の「かわつカーネーション見本園」で利用者8人が取り組んだ。その際、参加した県障害者文化芸術活動支援センター

「みらー」のスタッフと利用者はキャンバスボードに背景の色を塗った上で、カーネーションを描いた。引き抜き体験で持ち帰った花の写真を参考にし、みらーとのスタッフのアドバイスを受けながら絵筆を動かした。

利用者は「完成した作品を河津町内で展示できるとうれしい。利用者の励みになり、カーネーションのアピールにもなると思う」、ワークセンターを手伝った岡さんも「作品が見本園の観光資源になる」と期待を語った。

みらーとのスタッフの支援を受けながら、カーネーションの絵を描く利用者＝東伊豆町奈良本の東伊豆ワークセンター

狩野川花火 鮮やかに表現

沼津 施設利用者の絵画展示



狩野川や花火大会をテーマにした作品が並ぶ会場＝沼津市の沼津リバーサイドホテル

沼津市の沼津リバーサイドホテルで23日、三島市の就労継続支援B型事業所「のびる作業所」の利用者が、狩野川や沼津夏まつりの花火大会をテーマに描い

た新たな水彩画の展示が始まった。新型コロナウイルスの影響で花火大会が中止になった2021年に「明るい花火の絵で元気を届けたい」

と開始。以降は夏まつりが近づくたびに作品を入れ替え、通年で展示している。今年17人が花火や狩野川に架かる橋、ボートなどのモチーフを色鮮やかに表した。作業所では年4回講師を招いた水彩画教室を開き、利用者が長年創作に励んでいる。仲介役となっているNPO法人オールしずおかベストコミュニケーションの伊藤享子さんは「展示数も年々増え、お客さんの反応が励みになる」と感謝し、ホテルの山崎電起総支配人は「海外を含め多くの宿泊客が興味を持つくれる。沼津の花火大会を知ってもらう機会にもなっている」と話した。

明るく 鮮やかに 夏らしく

障害ある芸術家作品展

切り絵作家の安田幸大さん(湖西市)や、多機能型事業所「天電ワークキャンパス」(浜松市浜名区)のデザイナー西尾亜加梨さんなど、障害のあるアーティストの作品17点が並び「風を創る人たち西部展」が、浜松いわた信用金庫きらりタウン支店(同区染地台)で開かれている。28日まで。安田さんは、トウモロコシや熟れたトマトを表現した夏野菜シリーズの2作品など計6点を出品。西尾さんは、障害者アーティストの作品を集めた「irodori」作品展の来場者投票で銅賞に輝いた、青い海の中を漂うクラゲを描いた「浮遊散歩」など5点を展示している。



安田さんの作品を手に来場を呼びかける鈴木さん＝浜松いわた信用金庫きらりタウン支店で

色鮮やかな海中の生き物を描いた作品



絵画や写真障害者作品展 都田図書館



自由に鮮やかに50点

美術展「風を創るひとたち都田版」が、浜松市立都田図書館(浜名区都田町)で開かれている。障害のある人たちがそれぞれの感性で制作した絵画や写真、立体など約50点が並ぶ。10月21日まで。県障害者文化芸術活動支援センター「みらー」と同館が主催。展示作品では、遠州地域の福祉事業所の利用者がバスステルや絵の具、折り紙などを用い、たくさんの魚が泳ぐ海中や花火、東京の風景を表現。幻想的な花の写真のほか、色とりどりのテープを何重にも貼った立体も紹介している。展示されている場所

は、掲示コーナーのほか、書架の隣などさまざま。岡田希館長は「図書館は入りやすい施設。気軽に来て、作品鑑賞を楽しんでほしい」と話していた。

第1期は9月23日まで。作品を入れ替え、第2期は9月25日～10月21日。(池田知之)